

令和4年度第1回朝日町総合教育会議 会議録

令和4年5月24日（火曜日）

午前10時20分から午前11時35分

エコミュージアムコアセンター創遊館会議室

出席者 朝日町長 鈴木 浩幸
朝日町教育委員会
教育長 堀 俊一
委員 五十嵐義一
委員 井上 幸弘
委員 橋間 博美
委員 海野 睦

職務のため出席した者の職氏名

教育文化課長 伊藤 淳
主幹 高橋 昭彦
課長補佐兼学校教育係長 菊地早百合（書記）
課長補佐 伊藤 雅樹
生涯学習係長 白田 淳

1. 開 会

課長の進行及び開会宣言

2. あいさつ

鈴木 浩幸 朝日町長 未来の学校のあり方、子供たちのために率直な意見をお願いしたい。
堀 俊一 教育長 素案をもとに様々な意見をお願いしたい。

3. 協議事項

教育文化課長から会議の招集者である町長を議長とすることを確認し、了承を得る。

議長（鈴木町長） （1）あさひまち未来の学校検討委員会の進捗状況について説明を求めた。

教育文化課長 「あさひまち未来の学校検討委員会」において、「朝日町立小中学校のこれからの望ましいあり方」について協議し、検討結果として基本的な考え方がまとまったことから、教育委員会の諮問に対する答申書（案）を作成中である旨説明。
また、その答申書（案）の内容について説明。

議長（鈴木町長） （1）の協議内容のうち、「基本的な考え方」及び「基本的な考えに至った主な理由」について質疑、意見の有無を確認した。

五十嵐委員 義務教育学校がどのようなものなのか具体的な記載が欲しい。もっとわかりやすく明記したほうが良い。

井上委員 基本的な考え（義務教育学校創設）に至った主な理由として、弱いのではないか。これまで当町で進めてきた保小中連携の実践や特性（郷土教育、外国語学習など）

- を踏まえて、自然に行き着いたという熱い想いを記載すべきと思う。
- 橋間委員** 義務教育学校そのものについて、町民はまだイメージしにくいのではないかと。コミュニティ・スクールの推進や保小中連携・一貫教育に係る「英語学習 CAN-DO リスト」、「郷土学習カリキュラム」などを実践してきた最終形態が義務教育学校である、など、前向きな書き方をしてはどうか。
- 海野委員** 小中一貫校と義務教育学校の違いはあるのか。違うとすればなぜ義務教育学校なのかを明記してはどうか。
- 議長（鈴木町長）** 小中一貫校及び義務教育学校の違いやそれぞれの概要について確認した。
- 教育長** 小中一貫校及び義務教育学校の違いやそれぞれの概要について説明した。
- 議長（鈴木町長）** 次に（１）の協議内容のうち、「義務教育学校設置の具体的な方策」及び「設置にあたって配慮、検討すべきこと」について質疑、意見の有無を確認した。
- 井上委員** 新設の時期については、答申書（案）にある開校の目標年度（令和 12 年度／2030 年度）より早くする必要があるのではないかと。また、現在の小学校 6 年生として役割を通して養われる自主性やリーダーシップが失われることへの配慮が必要となる。縦割り班をうまく活用するなど、自主性やリーダーシップを養う機会を補完する必要がある。また、地域の関わり方や給食などについても考える必要がある。
- 橋間委員** 時期については、開校までの期間が長いと感じる。なるべく早い時期に開校させてほしい。答申書に記載する内容については、どこまで具体的に詳細に記載すべきか難しい。
- 海野委員** 開校時期はなるべく早いほうがみんなも期待できる。小学 6 年生から中学 1 年生などへの環境の変化がなくなる（少なくなる）ことに対して、子供たちの成長にどう影響するのか。
- 五十嵐委員** 学校がなくなる地域の住民に対する丁寧な説明が重要であり、理解を得るためにはある程度の時間が必要ではないかと。事務的な面や予算面でも開校までの時間はそれなりに必要だと感じる。各小学校の閉校に伴い、公民館を地域の核にしていく必要がある。
- 教育長** 現在ある学校の跡地についての検討も同時に進めていく必要がある。
- 議長（鈴木町長）** 答申書の書き方については、課題等の項目を箇条書きにするなど、分かりやすいように工夫してほしい。学年段階の「6－3」と「4－3－2」について、十分な検討をお願いする。今後の準備に際しては、部署の新設も検討しながら、業務にあたっていく。

4. 閉 会

以上、協議し、午前 11 時 35 分に第 1 回朝日町総合教育会議の会議を閉じた。

町 長

教 育 長

調製職員 菊地早百合